



2月24日

申21号

「東京駅新幹線ホーム下乗務員乗り継ぎ詰所の設置を求める」 再申し入れを行う！

2021年3月13日に、東京新幹線運輸区が発足されます。先日開催したJTSU-E申第18号ならびに申19号交渉において、会社は「東京新幹線運輸区を発足するにあたり輸送サービススタッフに相応しい開かれた環境の整備を実現していくための整備を行ってきた。よって、東京駅ホーム下の乗務員乗り継ぎ詰所を全て廃止し、新設される東京新幹線運輸区にて次の乗務等に備えることとする。なお、現行の乗務員乗り継ぎ詰所は、事業活用やグループ会社での使用の検討を行っている」と繰り返しの回答を行いました。

これまで新幹線乗務員が、行先地時間として設けられている限られた時間の中で食事をとり、かつ次の乗務に備えるための休息をとる場所として使用してきた現行の乗務員乗り継ぎ詰所を一方的に全て廃止することは、断じて許されません。なぜならば、乗務員勤務制度に則った極めて制限のある行先地時間の中で、東京新幹線運輸区に往復25分もの時間をかけて行き来することなど到底できるものではありません。さらに、輸送混乱時における列車運行の状況確認など乗務に備える体制はどのように行うのか、また、新幹線担当区所8区所の乗務員が集う際の利用方法や、時間僅少の乗り継ぎ時間の中どこで待機をすればよいのかなど、具体的な想定が行われているとは思えないからです。このような乗務員の視点で考えず、また東京駅の利用者動向などの現場現実と大きく乖離した机上の論理で物事を進めていることに憤りを禁じ得ません。

この間の労使交渉において会社は、乗務員勤務制度に則り、働きやすい環境の整備に向けて、現場実態に即して可能な限り調整していくことを回答してきましたが、今回の全ての乗務員乗り継ぎ詰所の廃止という提案内容は、これまでの労使の議論経過と確認事項を反故にするものであり到底看過することはできません。異常時対応を含め安全で安定した新幹線輸送とサービスを確保するためには、乗務員乗り継ぎ詰所の設置は必要不可欠です。安全・安定輸送を前提として、利便性とお客さまへのサービス向上に繋げるとともに、組合員の働きがいや働きやすさを創出し、「鉄道安全」と「労働安全」の実現を図っていかねばならないと考えています。

したがって、以下の通り申し入れ、労使間協約の信義誠実の原則に準じた会社の真摯な回答と建設的な議論を要請し、団体交渉に臨みます。

申し入れ事項

1. 東京駅新幹線ホーム乗務員乗り継ぎ詰所を設置すること。なお、次の乗務に向けた準備及び行先地における食事等、新幹線乗務員が有意義に活用できる環境を整備すること。

『安全』『安心』『ゆとり』が持てる労働環境の実現と
安全・サービスレベルの向上をつくり出せる新幹線職場を実現しよう！



申21号

東京駅新幹線ホーム下乗務員 乗り継ぎ詰所の設置を求める再申し入れ

3月9日 団体交渉を開催！

組合

東京新幹線ホーム下に乗務員乗り継ぎ詰所を設置すること。なお、次の乗務に向けた準備及び行先地における食事等、新幹線乗務員が有意義に活用できる環境を整備すること。

会社

東京駅の乗務間合い等に使用する折り返し待機場所は、東京新幹線運輸区とする。なお、列車遅延等で次列車の乗務に間に合わない時は、列車警乗係員の待機所（現行の北部詰所）にて運行情報を知得することが可能である。

輸送サービス労組

主な議論

J R 東日本

- この回答では容認できない。安全輸送・次の乗務に備えることができる（リラクセスできる環境・食事スペースの確保）乗り継ぎ詰所設置を改めて求める！次の乗務に備える待機場所として、時間があれば運輸区に戻る基本的な考えは否定しない。しかし、時間僅少の際はどこを使用すればいいのか？
働きやすい環境を整備することは会社の責務である！

対立

- 全ての乗務員がリラクセスできる場所として東京新幹線運輸区を整備した。よって、乗り継ぎ詰所は全て廃止する。時間があれば、東京新幹線運輸区に戻るのが基本である。しかし、列車遅延などで時間僅少の時もあるので、その際は、現行の北部詰所を使用するが、あくまで情報知得のためであり、待機場所としての使用は控えて欲しい。

- 東京新幹線運輸区は、新幹線乗務員 8 区所の乗務員の待機場所となる。最大何人が使用する想定か？コロナ対応も課題である。内覧会では、洗濯機・乾燥機が設置されていなかった。職場は私たちの生活の 1/3 を過ごす場所であり、生活拠点だ。やむを得ず、前泊をしなければならない勤務指定もあり、身だしなみの観点からも設置するべき。

- 100人を超える使用を想定して備品は設置している。コロナの対応には苦慮しているが、空調設備や空気清浄器なども活用して対応していく。しかし、洗濯機や乾燥機はコロナ対策には当たらず、これまでの使用実績を見て、設置しない判断を行った。

会社回答は容認できない！

現場の声、職場実態を把握した上で職場環境を整備すべきと指摘！

現場の声を無視し、乗り継ぎ詰所を設置しないことは認められない！
全組合員の総力であらゆる手段を用いて、
要求の実現に向けたたかひを強化します！